

2020年度(評価対象期間:2020年4月~2021年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに人材育成その他の教育研究上の目的を設定していますか。また、その内容は適切ですか。	A
		(2)	大学の理念・目的と学部・研究科の目的に関連性がありますか。	S
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) ①文学部宗教文化学科では、「人材の養成・教育研究上の目的」を設定し、建学の精神であり大学の理念である「行学一体・報恩感謝」を体現できる人材、および人類の叡智の所産である世界の宗教を学び、現代社会を生きぬく智慧を有する人材の育成することを目的としている。</p> <p>②宗教文化学科の「人材の養成・教育研究上の目的」の内容は、大学の理念を如実に反映するものとして、適切であると考えられる。</p> <p>(2) ①文学部宗教文化学科では、建学の精神である「行学一体・報恩感謝」を体現できる人材を育成することを目的として、宗教学・仏教学・禅学に関する専門的な知識を身につけ、さまざまな価値観を理解し、グローバルな視野に立って社会に貢献できる能力を養成することを理念としており、大学の理念・目的と学科の目的の間には、密接な関連性がある。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
「人材の養成・教育研究上の目的」【 https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose1.pdf 】				
文学部履修要項(2020、33頁)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的を適切に明示していますか。	A
		(2)	教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等により、大学の理念・目的、学部・研究科の目的等が周知及び公表されていますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) ①宗教文化学科では、学科独自の「人材の養成・教育研究上の目的」を「愛知学院大学人材の養成・教育研究上の目的に関する規程」に明示している。</p> <p>(2) ①宗教文化学科では、大学ホームページ及び毎年発行される履修要項に「人材の養成・教育研究上の目的」を掲載し、教職員及び学生に周知するとともに社会に公表している。</p> <p>②宗教文化学科では、学科の特色を大学案内及び「文学部だより」の学科ページに記載されている。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
文学部宗教文化学科「人材の養成・教育研究上の目的」【 https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose1.pdf 】				
文学部履修要項(P33)				
愛知学院大学「人材の養成・教育研究上の目的に関する規程」【 https://www.agu.ac.jp/guide/ideal 】				
大学案内2021(P47~P52)				
文学部だより(宗教文化学科該当ページ)				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにし、たうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特になし場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
	宗教文化学科では、教室での学修のみならず、「坐禅Ⅰ・Ⅱ」や、学外でのフィールドワークをおこなう「地域宗教文化Ⅰ-Ⅱ」などを開講し、「行学一体」の理念を体現する実践的な学修も採り入れている。
	宗教文化学科では、「現代社会と宗教Ⅰ・Ⅱ」、「現代社会と仏教Ⅰ・Ⅱ」の科目を設定している。特に「現代社会と宗教」では、最新の時事報道をふまえ、その時事と宗教がどのように関わっているかを例示し、考察している。社会人向けの開放講座科目にも指定され、多数の受講者がおり、時事と宗教との関わりを伝える役割を果たしている。
	宗教文化学科では、2年生全員を対象として「基礎セミナーⅡ」の科目において、キャリア教育を2016年度より実施している。そこでは、大学生活を見直し、キャリアについて認識を深めるとともに、宗教文化と現代社会との関わりについて学び、グローバル社会に対応し、多様な宗教文化を理解できる人材の育成を図っている。
	宗教文化学科では、大学の助成金を得て、毎年3年生を対象とし、学生及び学科教員が原則的に全員参加する研修旅行を実施している。研修後は参加者にレポートが課され、フィールドワークの実践的学修を通し、「行学一体」の学びを実践するものとなっている。

【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

「坐禅Ⅰ・Ⅱ」シラバス 【 https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbssbdr.do?value(risyunen)=2020&value(semekikn)=1&value(kougicd)=121036&value(crclumd)=1001000014 】 【 https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbssbdr.do?value(risyunen)=2020&value(semekikn)=2&value(kougicd)=221038&value(crclumd)=1001000014 】
「地域宗教文化Ⅰ-Ⅱ」シラバス 【 https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbssbdr.do?value(risyunen)=2020&value(semekikn)=2&value(kougicd)=221004&value(crclumd)=1001000014 】
「入学式プログラム」(新型コロナウイルス感染症対策のため中止)
「現代社会と宗教Ⅰ・Ⅱ」シラバス 【 https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbssbdr.do?value(risyunen)=2020&value(semekikn)=1&value(kougicd)=121014&value(crclumd)=1001000014 】 【 https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbssbdr.do?value(risyunen)=2020&value(semekikn)=2&value(kougicd)=221016&value(crclumd)=1001000014 】
「基礎セミナーⅡ」シラバス 【 https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbssbdr.do?value(risyunen)=2020&value(semekikn)=2&value(kougicd)=221045&value(crclumd)=1001000014 】
「3年ゼミ研修旅行案内チラシ」(新型コロナウイルス感染症対策のため中止)
「3年ゼミ研修旅行レポート」(新型コロナウイルス感染症対策のため中止)

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	「行学一体・報恩感謝」の建学の精神を具現化するためには、社会に対する実践的な取り組みも必要になってくる。本学大学院文学研究科宗教学仏教学専攻には、被災地や医療機関、福祉施設などで宗派を超えて心のケアを提供する臨床宗教師養成科目が2017（平成29）年度より開講されている。そうした実践的な社会への関与を促すような科目が将来的には学部レベルでもあるとよい。

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
	宗教文化学科で開講している「現代社会と仏教Ⅰ・Ⅱ」について、2020年度から、臨床宗教師を研究対象とし、本学大学院文学研究科宗教学仏教学専攻において臨床宗教師の講義を担当する外国人研究者を非常勤講師として採用し、社会に対する実践的な取り組みについての講義を新たに開始した。

【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

「大学院文学研究科宗教学仏教学専攻 臨床宗教学研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」シラバス
 【<https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/data/2017/syllabus01-1.pdf>】

「現代社会と仏教Ⅰ・Ⅱ」シラバス

【[https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbssbdr.do?value\(risyunen\)=2020&value\(semekikn\)=1&value\(kougicd\)=121029&value\(crclumcd\)=1001000014](https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbssbdr.do?value(risyunen)=2020&value(semekikn)=1&value(kougicd)=121029&value(crclumcd)=1001000014)】
 【[https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbssbdr.do?value\(risyunen\)=2020&value\(semekikn\)=2&value\(kougicd\)=221031&value\(crclumcd\)=1001000014](https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbssbdr.do?value(risyunen)=2020&value(semekikn)=2&value(kougicd)=221031&value(crclumcd)=1001000014)】

5. 「基準1」全体の自己評価

	自己評価
基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。	A

2020年度(評価対象期間:2020年4月~2021年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。	(1)	学部・研究科その他の組織における定期的な点検・評価及び点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを計画的に実施していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 宗教文化学科では、教育に関する内部質保証として、毎年実施される学生による授業評価アンケートを、専任教員及び非常勤講師に対し、20名以下の演習科目を除く全科目で実施するよう義務付けている。授業評価アンケートは、学内で閲覧できるほか、学部別のアンケート結果は、大学ホームページで公開されている。</p> <p>(2) 学生アンケートについては、自由記述を含め、文学部自己点検・自己評価委員会、さらには宗教文化学科自己点検・自己評価委員会において点検・把握し、内部質保証体制を構築している。</p> <p>(3) 宗教文化学科では、自己点検・自己評価委員会を定期的に開催し、自己点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた話し合いを行い、改善を図っている。</p>				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
学生アンケート依頼状				
学生アンケート学部別【 https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/data/jyugyo_enquete.pdf 】				
文学部宗教文化学科自己点検・自己評価委員会議事録				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
③	宗教文化学科では、授業評価アンケートを、専任教員および非常勤講師全員に対し、20名以下の演習科目を除く全科目で実施するよう義務付けている。
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	
学生アンケート依頼状	
「令和2年度 学生アンケートの集計結果」ウェブサイト	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	課題・問題点
③	宗教文化学科では、20名以下の演習科目を除く全ての科目で授業アンケートを実施し、学生の意見を授業運営に反映させることを決定した。今年度は、授業アンケートの回答率を上げることが課題とされた。

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既の実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。	
点検・評価項目番号	改善策
③	宗教文化学科では、学科よりFD委員を1名選出しており、文学部ないし全学のFD委員会で授業アンケートのあり方が審議されている。宗教文化学科では、全学の方針に倣い、令和2年度(2020年度)から、演習科目を除き全ての科目でアンケートを実施した。さらに、授業中に授業アンケートに回答する時間を設けることを学科会議で審議し、春学期よりも秋学期は回答率が向上した。
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	
文学部委員名簿	
全学FD活動報告書(P3-P4)	

5. 「基準2」全体の自己評価

基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2020年度(評価対象期間:2020年4月~2021年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	(1)	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針を適切に設定し公表していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1)宗教文化学科では、学位授与方針をディプロマ・ポリシーとして策定し、公表している。具体的には、「宗教文化に関連する幅広い教養の修得、多様な宗教文化への理解と対応力、専門基礎語学の知識を生かした文献学的研究とフィールドワーク研究、宗教文化に関する専門知識の修得とその実践、卒業論文の作成能力」といった5つの力によって学位授与の判定をしており、その方針は、大学ホームページや文学部の履修要項に掲載されている。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
「ディプロマ・ポリシー」【 https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma01.pdf 】				
「文学部履修要項」(2020、34頁)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1)	下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表をしていますか。 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等	A
		(2)	教育課程の編成・実施方針と学位授与方針には適切な関連性がありますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 宗教文化学科では、教育課程の編成・実施方針を設定し大学ホームページや「履修要項」に掲載・公表している。カリキュラム・ポリシーに応じたカリキュラムを作成し、履修要項や大学案内、文学部への招待において、教育課程の体系および教育内容を公表している。具体的には、1年次に宗教学・仏教学・禅学の各専門分野の基礎的な知識を修得する。2年次では各専門分野に必要な基礎語学を修得し、より発展的な内容について学ぶ。3年次では宗教学・仏教学・禅学の各分野の専門演習(セミナー)を決定し、高度な専門知識の修得と応用を目指す。4年次ではそれまでの学修の集大成として卒業論文を作成する。</p> <p>(2) 宗教文化学科では、学位授与方針を示したディプロマ・ポリシーに対応したカリキュラム・ポリシーを作成している。学位授与の判定は、宗教文化に関連する幅広い教養の修得、多様な宗教文化への理解と対応力、専門基礎語学の知識を生かした文献学的研究とフィールドワーク研究、宗教文化に関する専門知識の修得とその実践、卒業論文の作成能力といった5つの力によって判定しており、その方針は大学ホームページや文学部の履修要項に掲載されている。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
カリキュラム・ポリシー【 https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum01.pdf 】				
ディプロマ・ポリシー【 https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma01.pdf 】				
「文学部履修要項」(80頁)				
「大学案内」(51頁)				
「文学部への招待」				
「新入生オリエンテーション」パワーポイント資料(新型コロナウイルス感染症対策のため中止)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1)	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性はとれていますか。	A
		(2)	教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮、授業科目の位置づけ(必修、選択等)は適切ですか。	A
		(3)	個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針を踏まえていますか。	A
		(4)	各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 <学士課程> 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 <修士課程、博士課程> コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等	A
		(5)	学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるように具体的に説明してください。				
(1) 宗教文化学科では、カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程のカリキュラムが組まれている。履修要項と大学案内、文学部への招待において、教育課程の体系および教育内容を公表している。具体的には、1年次に宗教学・仏教学・禅学の各専門分野の基礎的な知識を修得する。2年次では各専門分野に必要な基礎語学を修得し、より発展的な内容について学ぶ。3年次では宗教学・仏教学・禅学の各分野の専門演習(セミナー)を決定し、高度な専門知識の修得と応用を目指す。4年次ではそれまでの学修の集大成として卒業論文を作成する。またカリキュラムにおいて身に付けるべき能力は、カリキュラム・マップに表されている。教育課程の編成や実施方針については、大学ホームページや「履修要項」、「大学案内」、「文学部への招待」などに掲載・公表している。				
(2) 宗教文化学科では、1年次に宗教学・仏教学・禅学の各専門分野の基礎的な知識を修得する。2年次では各専門分野に必要な基礎語学を修得し、より発展的な内容について学ぶ。3年次では宗教学・仏教学・禅学の各分野の専門演習(セミナー)を決定し、高度な専門知識の修得と応用を目指す。4年次ではそれまでの学修の集大成として卒業論文を作成する。以上のように、初年度から段階的に高度な学修へと進むよう配慮がなされている。				
(3) 宗教文化学科では、カリキュラム・ポリシーに沿ったカリキュラムが組まれており、さらに、カリキュラム・マップには、カリキュラム・ポリシーに沿った形で個々の授業科目の内容、身に付けるべき能力が明示されている。カリキュラムマップは、大学ホームページの他、履修要項にも掲載されている。				
(4) 宗教文化学科では、入学前教育として課題図書に基づくレポートの作成を課し、入学後、提出されたレポートに対して指導を行っている。また、宗教文化学科では、カリキュラム・ポリシーを定め、1年次の「基礎セミナーⅠ」において、「読む・書く・話す・聞く」といった大学教育に必要な基礎的能力を身につけると、「地域宗教文化Ⅰ-Ⅱ」において、学外でのフィールドワークに参加し、自発的に問題を発見し、仲間と協働して行動する力を身につけ、学外の社会とつながる重要性を理解することが明記されている。さらに、2年次の「基礎セミナーⅡ」において、学生はキャリア形成に必要なスキルを身につけ、大学で学ぶ意義と社会人として働く意義を明確に理解すること、3年次以降の演習科目(ゼミナール)で、宗教学・仏教学・禅学の各分野の専門的な学びを深め、学位取得に必要な知識や技能を身につけることが明示される。また、カリキュラム・ポリシーには、「教養教育科目」と連携することにより、専門知識を補完する幅広い教養を身につけることも明記されている。				
(5) 宗教文化学科では、2年次の「基礎セミナーⅡ」で、キャリアに関する授業を行っており、学生がキャリア形成に必要なスキルを身につけ、大学で学ぶ意義と社会人として働く意義を明確に理解する教育がなされている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
ディプロマ・ポリシー【 https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma01.pdf 】				
カリキュラム・ポリシー【 https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum01.pdf 】				
カリキュラム・マップ【 https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/data/curriculum_map01.pdf 】				
「基礎セミナーⅠ」シラバス 【 https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbssbdr.do?value(risyunen)=2020&value(semekikn)=1&value(kougicd)=121044&value(crclumcd)=1001000014 】				
「地域宗教文化Ⅰ-Ⅱ」シラバス 【 https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbssbdr.do?value(risyunen)=2020&value(semekikn)=2&value(kougicd)=221004&value(crclumcd)=1001000014 】				
「基礎セミナーⅡ」シラバス 【 https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbssbdr.do?value(risyunen)=2020&value(semekikn)=2&value(kougicd)=221045&value(crclumcd)=1001000014 】				

点検・評価項目		評価の視点	自己評価
④	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 単位の実質化を図るための措置(授業時間外に必要な学習の促進、学士課程においては履修登録単位数の上限設定等)を講じていますか。	A
		(2) シラバスの内容(授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示)は適切ですか。授業内容とシラバスとの整合性が確保されていますか。	A
		(3) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法などの措置を講じていますか。	A
		(4) 各学位課程に応じてその他の措置を講じていますか。 <学士課程> ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数、適切な履修指導の実施 <修士課程、博士課程> ・研究指導計画(研究指導の内容及び方法、年間スケジュール)の明示とそれに基づく研究指導の実施	A
<p>【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 宗教文化学科では、シラバスに予習時間、復習時間を明記するようにし、FD委員によるシラバスチェックも行っている。また、キャップ制を導入し、年間の取得上限単位を制限している。</p> <p>(2) 宗教文化学科では、入学時に、教務課、教養部の教員と協働し、新入生の履修に関するオリエンテーションをおこなっている。そこで学生に大学および学科のディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーを確認してもらい、履修の大切さや方法を教示している。また、宗教文化学科では、カリキュラム・マップを作成しており、FD委員が毎年2月に非常勤・兼任教員を含めてシラバスチェックを行い内容の適切性を確認している。また、シラバスと授業内容の整合性については、授業アンケートに設問を設けて確認している。</p> <p>(3) 宗教文化学科では、1年次の「基礎セミナーⅠ」及び「地域宗教文化Ⅰ－Ⅱ」、2年次の「基礎セミナーⅡ」では、クラス担任制を取っており、比較的少人数のクラスでフィールドワークやアクティブラーニングを行い、学生の主体的な参加を促している。また、「地域宗教文化Ⅰ－Ⅱ」では、2016年度(平成28)年度より、学科独自のワークブックを作成し、学生が主体的に自分のノートを作り上げられるようになった。また、FD委員会において模擬授業を行い、教員が相互に授業を見学し、授業改善に努めている。</p> <p>(4) 定員を70名としており、大人数の講義形式の授業であっても100名以下を維持している。宗教文化学科では、1年次の「基礎セミナーⅠ」と「地域宗教文化Ⅰ－Ⅱ」、2年次の「基礎セミナーⅡ」では、クラス担任制を取っており、比較的少人数の授業を実現している。また、担当教員によって、教育内容に違いが出ないよう、共通内容のシラバスにしている。これにより、どのクラスにおいても学科の教育方針に沿った授業や課題提出が行えるようになっている。また、入学時に、教務課、教養部の教員と協働し、新入生の履修に関するオリエンテーションをおこなっている。そこで学生に大学および学科のディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーを確認してもらい、履修の大切さや方法を教示している。</p>			
<p>【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>			
根拠資料名			
ディプロマ・ポリシー【 https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma01.pdf 】			
宗教文化学科FD委員シラバスチェック報告書			
履修要項(40-41頁 履修登録)			
「入学式プログラム」			
宗教文化学科科会議議事録(2020年度シラバス関係)			

点検・評価項目		評価の視点	自己評価
⑤	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1) 単位制度の趣旨に基づく単位認定を行っていますか。また、既修得単位の適切な認定を行っていますか。	A
		(2) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置を講じていますか。	A
		(3) 卒業・修了要件を明示していますか。	A
		(4) 〈修士課程・博士課程〉学位論文審査基準を明示していますか。	
		(5) 学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するためにどのような措置を講じていますか。学位授与に係る責任体制及び手続は明示されていますか。	A
		(6) 適切に学位授与を行っていますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 宗教文化学科では、128単位を修得していれば卒業要件充足者として学位が授与される。4年次の卒業論文については、主査による論文審査と、副査による口頭試問の2つによって評価されている。主査・副査の双方による平均点によって最終的な評価を行っている。各科目については、シラバスに必ず「評価の方法」を明示し、それに従って評価を行っている。単位制度及び既修得単位の認定については、履修要項に記載し、それに基づき認定を行っている。</p> <p>(2) 卒業論文の口頭試問、中間発表会、中間指導会では、主査となるゼミ担当教員以外の教員が審査する。その際、ルーブリックを用い、5つの能力判定を点数化している。さらに、全学科教員の参加する学科会議で公表し、公平さに努めている。</p> <p>(3) 宗教文化学科ではディプロマポリシーを策定し、学位授与に求められる能力を公示している。卒業論文審査においては、ルーブリックを作成し、成績判定に用いる能力を点数化している。また、卒業論文の最終的な判定は、学科教員が全員参加する学科会議で審議し、公平さに努めている。また、卒業・修了要件を履修要項に明示し、学生に周知している。</p> <p>(4)</p> <p>(5) 卒業論文の口頭試問、中間発表会、中間指導会では、主査となるゼミ担当教員以外の教員が審査する。その際、ルーブリックを用い、5つの能力判定を点数化している。さらに、学科会議において学科所属教員全員で協議し、公平さに努めている。学位授与は、文学部会の議を経たうえ、最終的には代表教授会で審議・決定しており、客観性及び厳格性を確保している。</p> <p>(6) 卒業論文の口頭試問、中間発表会、中間指導会では、主査となるゼミ担当教員以外の教員が審査する。その際、ルーブリックを用い、5つの能力判定を点数化している。さらに、学科会議で公表し、公平さに努めている。宗教文化学科では、128 単位を修得していれば卒業要件充足者として学位が授与される。</p>			
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>			
根拠資料名			
履修要項(9 単位制、21-22頁 成績、27-19頁 単位認定)			
卒業論文口頭試問ルーブリック2020			
卒業論文中間発表会ルーブリック2020			
卒業論文中間指導会ルーブリック2020			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑥	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)	各学位課程の分野の特性に応じて、学位授与方針に示した学習成果を測定するための多角的で適切な指標設定を行っていますか。	A
		(2)	学習成果を把握及び評価するために適切な測定方法を用いていますか。 ≪学習成果の測定方法例≫ ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 宗教文化学科ではディプロマ・ポリシーを策定し、卒業に求められる能力を公示している。また、個人カルテ(ポートフォリオ)を1年次に必ず作成し、1年生と2年生には年2回、個人面談を行っている。面談に訪れなかった学生や問題のあった学生については学科会議で報告し、学科教員の間で情報共有を行っている。また、宗教文化学科では、2019年3月、アセスメント・プランを設定し、DPに示した学習成果を測定するための指標を設定している。</p> <p>(2) 卒業論文の口頭試問、中間発表会、中間指導会では、主査となるゼミ担当教員以外の教員が審査する。その際、ルーブリックを用い、5つの能力判定を点数化している。さらに、学科会議で公表し、公平さに努めている。宗教文化学科では、128単位を修得していれば卒業要件充足者として学位が授与される。また、1年生入学時に作成した個人カルテを卒業時まで保持し、2年生までは学科教員、3年生以上はゼミ担当教員が年に2回必ず個人面談を行い、GPAや取得単位、課外活動を含めた活動状況を記録し、学習状況・学習成果を逐次把握している。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
個人カルテ				
1年生・2年生個人面談案内チラシ				
宗教文化学科学科会議議事録(個人面談報告)				
卒業論文口頭試問ルーブリック				
卒業論文中間発表会ルーブリック				
卒業論文中間指導会ルーブリック				
宗教文化学科アセスメント・ポリシー				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑦	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	A
		(2)	点検・評価結果に基づき、改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 宗教文化学科では、ルーブリックを用いた卒業論文中間発表会や中間指導会、卒業論文口頭試問の測定結果を、各ゼミ教員がゼミの成績に反映させている。また、2019年度より、文学部自己点検・自己評価委員会において、学習成果の測定結果に基づき、教育課程及びその内容・方法が適切であるか、点検・評価している。宗教文化学科においても、学習成果の測定結果に基づき、教育課程及びその内容・方法が適切であるかの点検・評価を行っている。</p> <p>(2) 宗教文化学科では、特に、複数の教員が同じシラバスを使用して同時間帯に授業を行っている「基礎セミナーⅠ・Ⅱ」や「地域宗教文化Ⅰ-Ⅱ」において、担当教員が定期的に打ち合わせをして内容の点検や評価方法の確認、それをふまえた改善を行っている。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
卒業論文口頭試問ルーブリック				
卒業論文中間発表会ルーブリック				
卒業論文中間指導会ルーブリック				
宗教文化学科学科会議議事録				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特になし場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
⑥	宗教文化学科では、卒業論文口頭試問に加え、中間発表会、中間指導会にもルーブリックを導入し、5つの能力について厳密に判定することとした。また、2017年度より「卒業論文マニュアル」を作成し、卒業論文完成までの手順を明確化して学生に示している。
	宗教文化学科では、入学式直後、1年生全員を対象にランチ会を実施し、全学科教員も参加し、相互交流および入学後の聞き取り調査も行っている。さらに、宗教文化学科では、遠方から進学し、ひとり暮らしをしている学生も多い宗内生(曹洞宗宗門徒弟)に対し、全学年の宗内生を集めた昼食会を、全教員も参加の上で実施し、生活上の問題点などを聞き取り調査している。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
卒業論文中間発表会ルーブリック
卒業論文中間指導会ルーブリック
卒業論文マニュアル(2017年度より毎年継続作成)
1年生ランチ会、宗内生昼食会チラシ(新型コロナウイルス感染症対策のため中止)

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特になし場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
⑥	卒業論文口頭試問は、現在指導教官である主査以外の1名の教員が担当しているが、複数の教員で担当するなどの改善策が話し合われている。

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既にも実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
⑥	2021年度より4年ゼミ担当教員が1名増えることから、卒業論文口頭試問を複数の教員で担当するなどの改善策を継続して審議することが決定された。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
宗教文化学科学科会議事録

5. 「基準4」全体の自己評価

基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価 A
--	---------------

2020年度(評価対象期間:2020年4月~2021年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	(1)	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を適切に設定し、公表していますか。	A
		(2)	下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針を設定していますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 宗教文化学科では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえたアドミッション・ポリシーを適切に設定している。具体的には、宗教文化を学問的に研究することで、宗教の歴史・文化・世界観を学び、同時に現代人が直面している諸問題に取り組もうとする学生を求めることから、その学びを可能にする基礎学力、特に日本語読解力、表現力を重視し、選抜している。こうした受け入れ方針をアドミッション・ポリシーとして定め、大学ホームページや入学試験要項で公表している。</p> <p>(2) 宗教文化学科では、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の内容を踏まえたアドミッション・ポリシーを設定している。アドミッション・ポリシーに応じた学生を受け入れるため、基礎学力、特に日本語読解力、表現力を備えて、積極的に学ぼうとする意欲のある人を、多様な入試種別を設けて、以下のようにそれぞれの入試ごとに選抜している。(1)一般入試:国語・英語・社会などの基礎学力がある人を求め、宗教文化を学ぶ意欲と適性を試験によって判定する。(2)AO入試:宗教文化を学ぶ明確な意思をもつ人を求め、学業以外の顕著な実績、資格を将来の学修につなげる意欲と創造力を、面接試験と書類審査によって総合的に判定する。(3)公募制推薦入試A:高等学校で学ぶべき基礎学力を習得した人を求め、課題文設問型の試験によって、日本語読解力と表現力を、国語・英語の適性検査によって学修の前提となる思考力・判断力・表現力を判定する。(4)公募制推薦入試B:国語・英語の適性検査によって、学修の前提となる思考力・判断力・表現力を判定する。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
入学試験要項				
ディプロマ・ポリシー【 https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma01.pdf 】				
カリキュラム・ポリシー【 https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum01.pdf 】				
アドミッション・ポリシー【 https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission01.pdf 】				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	(1)	学生の受け入れ方針に基づき学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定していますか。	A
		(2)	入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制を適切に整備していますか。	A
		(3)	公正な入学者選抜を実施していますか。	A
		(4)	入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 宗教文化学科では、入試委員を1名選出し、入学者選抜実施のための体制を整備している。また、アドミッション・ポリシーに明記された通り、(1)一般入試、(2)AO入試、(3)公募制推薦入試A、(4)公募制推薦入試Bといった異なる選抜制度を用い、多様な学生を受け入れる配慮を行っている。</p> <p>(2) 宗教文化学科では、入試委員会に出席する入試委員を1名選出し、入学者選抜実施のための体制を整備している</p> <p>(3) 宗教文化学科では、入試委員を1名選出し、入学者選抜を公正に実施しているほか、(1)一般入試、(2)AO入試、(3)公募制推薦入試A、(4)公募制推薦入試Bといった異なる選抜制度を用い、多様な学生を公正に受け入れる配慮を行っている。</p> <p>(4) 宗教文化学科では、(1)一般入試、(2)AO入試、(3)公募制推薦入試A、(4)公募制推薦入試Bといった異なる選抜制度を用い、学生の多様性に応じた選抜を行っている。入学者選抜にあたっては、別室受験、拡大解答用紙の使用、試験時間の延長、医療機器の試験室への持ち込み等に配慮し、入学希望者への合理的な配慮に基づく公平な選抜を実施している。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
文学部委員名簿				
アドミッションポリシー【 https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission01.pdf 】				
入学試験要項				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1)	入学定員及び収容定員を適切に設定し、在籍学生数を管理していますか。 <学士課程> ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応 <修士課程、博士課程、専門職学位課程> ・収容定員に対する在籍学生数比率	A
[現状] 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 宗教文化学科では、入学定員を定め、入学試験要項などに明記している。入試委員を1名選出し、入学者選抜実施のための体制を整備している。2020年度の入学者は定員70名のところ72名となり、2名超過した。編入学生については、2年次及び3年次編入の定員が各1名のところ、2020年度は、2年生編入0名、3年生編入0名であった。ただし、定員充足率が高くと、1年生の基礎教育を行う基礎セミナーⅠおよび地域宗教文化Ⅰ-Ⅱだけでなく、本年度より2年生を対象としてキャリア教育を行う基礎セミナーⅡのクラスを3クラスにし、在籍学生数のフォロー体制の整備に配慮している。				
[根拠資料] 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
文学部委員名簿				
宗教文化学科学生名簿				
「入学者数・収容定員及び在籍者数」ウェブサイト【 https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/data/teiin2020.pdf 】				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づき改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
[現状] 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 宗教文化学科では、入試委員を1名選出し、入試センターの提供するデータに基づき、入試方法の改善と体制整備を図っている。				
(2) 宗教文化学科では、入試委員を1名選出し、入試センターの提供するデータに基づき指定校推薦の基準を改定するなど入試方法の改善と体制整備を図っている。				
[根拠資料名] 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
文学部委員名簿				
指定校推薦評点基準表				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
①、②	宗教文化学科では、宗教文化を学問的に研究することで、宗教の歴史・文化・世界観を学び、同時に現代人が直面している諸問題に取り組もうとする学生を求めている。また、その学びを可能にする基礎学力、特に日本語読解力、表現力を重視し、選抜している。また、こうした受け入れ方針を大学ホームページで公表している。
	宗教文化学科では、オープンキャンパスの際、模擬授業だけでなく、中国茶、絵馬作り、写経、椅子坐禅、梵字などのイベントを企画し、学生の訪問数を増やし、志願者数増加につなげる努力をしている。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
アドミッションポリシー : https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission01.pdf
夏・秋のオープンキャンパスプログラム
愛知学院大学文学部宗教文化学科学生運営サイト 【 https://www.google.co.jp/url?sa=t&rct=j&q=&esrc=s&source=web&cd=&cad=rja&uact=8&ved=2ahUKewjQ4ff9x7jvAhXbE4gKHTXIAAoQFjAEegQIAxAD&url=http%3A%2F%2Freligion.agu.ac.jp%2F&usg=AOvVaw0v1C9rGwua5UfUM2-WcZ40 】

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
③	宗教文化学科では、入試委員を1名選出し、入学者選抜実施のための体制を整備している。ただし、2020年度は、定員70名のところ72名となり2名超過している。

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既にも実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
③	宗教文化学科では、入学者選抜の内容を点検し、見直すなどの対応をしている。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
宗教文化学科学科会議議事録
指定校推薦評点基準表

5. 「基準5」全体の自己評価

基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2020年度(評価対象期間:2020年4月~2021年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的に基づき大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	(1)	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を適切に明示していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 宗教文化学科では、愛知学院大学文学部の「教員組織の編制方針」に沿って、宗教文化学科独自の「教員組織の編制方針」を策定し、明示している。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
愛知学院大学文学部「教員組織の編制方針」				
宗教文化学科「教員組織の編制方針」				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1)	大学全体及び学部・研究科等ごとの専任教員数は適切ですか。	B
		(2)	学部・研究科等ごとの専任教員数を適切に維持するため、計画的に募集・採用・昇任等を実施していますか。	B
		(3)	教員組織の編制に関する方針に基づき、適切に教員組織を編制していますか。 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授、講師又は助教)の適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置(国際性、男女比等も含む) ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	B
		(4)	学士課程における教養教育の運営体制は適切ですか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 宗教文化学科では、教員が7名おり、70代1名、60代2名、50代1名、40代2名、30代1名である。2020年度は、30代の教員が1名着任し、状況は改善した。</p> <p>(2) 学科の専任教員数を適切に維持するため、文学部人事審査委員会を中心に、学科からも状況説明を行いつつ、計画的に教員人事(募集・採用・昇任)を実施している。</p>				

(3) 教員7名のうち、男性教員7名、女性教員1名であり、ジェンダーのアンバランスな状態は続いている。近年は、女性の非常勤講師の数が増加したことにより、授業担当教員についてのジェンダー不均衡な状態は若干改善してきている。

また、分野別では、宗教学分野、仏教学分野、禅学分野と3分野あり、それぞれ、3名、2名、2名の教員がいる。一見問題がなさそうに見えるが、内実としては禅学分野の教員1名が副理事長、仏教学分野の1名は学長と、多忙かつ不在日も多く、学科運営上の支障も出ている。

授業担当数については、各教員6～7科目を担当し、適切と考えられる。ただ、これと併せて大学院の授業や教職関連科目を担当すると、負担の多い教員も存在する。また、8名の教員のうち、副理事長・学長の2名を出していることから、実質的には相当限られた人数で授業を担当している。

なお、宗教文化学科の教員組織の編制に関する方針を2019年度に策定した。

(4) 宗教文化学科では、本学教養部と連携し、学士課程における教養教育の運営体制の拡充に努めている。また、宗教文化学科開講科目においても、教養部の教員数名に兼担として講義担当を委嘱し、幅広いカリキュラムの実現に配慮している。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

各学部・研究科における教員組織の編制の適切性について

授業担当表

宗教文化学科「教員組織の編制方針」

宗教文化学科「科目担当者表」

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	(1)	教員の職位(教授、准教授、講師、助教等)ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続を設定し、規程を整備していますか。	A
		(2)	規程に沿った教員の募集、採用、昇任等を実施していますか。	A

〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1) 宗教文化学科では、2019年4月付で改定された「文学部昇任・採用人事審査規定」に従っている。

(2) 宗教文化学科では、2020年4月に新任教員を採用した。公募に際して、「文学部採用人事審査規定」に記載された博士号の所持(取得見込みを含む)を求めるなど、規定に従って審査を行った。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

「文学部昇任・採用人事審査規定」

禅学教員募集要項(2018年1月)

宗教文化学科学科会議議事録

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的に実施していますか。	A
		(2)	教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価を行い、結果を活用していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 宗教文化学科では、毎年FD委員を選出し、文学部FD活動に参加している。平成30年度は学科教員より2名選出し、研究授業を行ったほか、全学FD研究会でも宗教文化学科教員が発表した。また、宗教文化学科では、全学で半期ごとに実施される「学生アンケート」に全教員が参加している。教員は、アンケート結果にコメントすることが義務付けられており、アンケート結果を踏まえて授業の改善に努めている。</p> <p>(2) 宗教文化学科では、文学部の他学科と同様に、教員の教育活動、研究活動、社会活動等について、毎年発行される「愛知学院大学文学部紀要」に、「文学部講演会・研究会記録」の一部として、著書、論文、翻訳・資料・書評・口頭発表等を掲載し、公表している。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
全学FD活動報告書				
「令和2年度 学生アンケートの集計結果」ウェブサイト				
「愛知学院大学文学部紀要」				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑤	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価を実施していますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 文学部では、人事審査委員会が、教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っている。また、宗教文化学科では、学生のゼミ志望調書や学科開講科目の受講者数、卒業時アンケートなどに基づき、学生の希望する学習・研究分野などを考慮した上で、学科会議で教員組織の適切性について定期的に検討している。</p> <p>(2) 宗教文化学科では、学科会議において、教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行い、専任教員および非常勤講師の採用人事等に反映させている。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
宗教文化学科科会議議事録				
ゼミ志望調書				
卒業時アンケート				

2. 長所・特色

<p>有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。</p>	
点検・評価項目番号	長所・特色
	<p>宗教文化学科に所属する専任教員7名のうち、6名が博士号を持っている。研究発表や研究論文の執筆、科研費の申請など研究活動は積極的に行うべきであるという認識が学科内で共有されている。</p>
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>	
根拠資料名	
<p>大学ホームページ、宗教文化学科紹介ページ【http://www.flet.agu.ac.jp/faculty/religious/index.html】</p>	

3. 課題・問題点

<p>理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。</p>	
点検・評価項目番号	課題・問題点
②	<p>教員7名のうち、男性教員6名、女性教員1名であり、ジェンダーのアンバランスな状態は続いている。その点は、2020年度に新任教員を迎えたが、変わりはない。</p>

4. 課題・問題点に対する改善策

<p>「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既に行っている場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。</p>	
点検・評価項目番号	改善策
②	<p>教員におけるジェンダーの不均衡については、すぐに是正することは難しいため、女性の非常勤講師の数を増やすなどの努力を継続したい。</p>
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>	
根拠資料名	
<p>大学ホームページ、宗教文化学科紹介ページ【http://www.flet.agu.ac.jp/faculty/religious/index.html】</p>	

5. 「基準6」全体の自己評価

<p>基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。</p>	自己評価
	B

2020年度(評価対象期間:2020年4月~2021年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)	学外組織との適切な連携体制を構築していますか。地域交流、国際交流事業への参加に取り組んでいますか。	A
		(2)	社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 宗教文化学科では、朝日カルチャーセンター名古屋において、2015年より連携講座への出講(2020年で6回目)を行っている。毎年全6回の授業を、専任教員が1回ずつ担当し、主に日本仏教をテーマとして講義している。また、「地域宗教文化Ⅰ-Ⅱ」の授業では、覚王山日泰寺の協賛を受け、日泰寺や日泰寺商店街でのフィールドワーク調査を行うだけでなく、日泰寺の僧侶による講義なども取り入れている(2020年度は新型コロナウイルス感染症対策のため中止)。また、「基礎セミナーⅡ」では、キャリアカウンセラーを招き、宗教文化学科の専任教員と合同でキャリアについての授業を実施している。</p> <p>(2) 宗教文化学科では、愛知学院大学エクステンションセンター主催のオープンカレッジでの「仏教入門」講座へ出講している(2017年から。2020年で4回目であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため、中止となった)。全10回の授業を、宗教文化学科の教員が1回ないし2回担当し、日本仏教の祖師について講義している。また、宗教文化学科の教員が開放講座として一般の聴講生を受け入れ、授業を行っている(2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となった)。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
朝日カルチャーセンター名古屋、愛知学院大学文学部宗教文化学科連携講座パンフレット				
朝日カルチャーセンター、愛知学院大学文学部宗教文化学科連携講座ホームページ 【 https://www.asahiculture.jp/page/nagoya/univ_alliance 】				
「地域宗教文化Ⅰ-Ⅱ」シラバス 【 https://wcs.agu.ac.jp/campusp/slbssbdr.do?value(risyunen)=2020&value(semekikn)=2&value(kougicd)=221004&value(crclumcd)=1001000014 】				
「基礎セミナーⅡ」シラバス 【 https://wcs.agu.ac.jp/campusp/slbssbdr.do?value(risyunen)=2020&value(semekikn)=2&value(kougicd)=221045&value(crclumcd)=1001000014 】				
愛知学院大学オープンカレッジ講座パンフレット				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価を実施していますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1)「地域宗教文化Ⅰ-Ⅱ」や「基礎セミナーⅡ」、開放講座に指定されている授業では、学生アンケートの対象となっており、学生の意見を反映して授業環境が改善されている。</p> <p>(2)オープンカレッジ講座では、必ずアンケートを取り、次年度の講座に反映している。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
学生アンケート集計表				
オープンカレッジ講座アンケート				

2. 長所・特色

点検・評価項目番号		長所・特色
<p>有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。</p>		
②	<p>宗教文化学科では、宗教文化に関わる教員の専門的知識を生かし、連携講座やオープンカレッジを開催している。この点での地域貢献は今後も実施していきたい。</p>	
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>		
根拠資料名		
朝日カルチャーセンター名古屋、愛知学院大学文学部宗教文化学科連携講座パンフレット		
愛知学院大学オープンカレッジ講座パンフレット		

3. 課題・問題点

点検・評価項目番号		課題・問題点
<p>理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。</p>		
②	<p>宗教文化学科では、教員数が少ないため、連携講座等を毎年実施した場合に、講義内容がマンネリとなる危険性があった。</p>	

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既に実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。	
点検・評価項目番号	改善策
②	2020年度は、30代の教員が1名着任し、世代間の教員数のアンバランスが改善され、連携講座などの講座内容も多様性を持たせることが可能になった。さらに、宗教文化学科において連携講座等を企画する場合には、アンケートなどで受講生の希望を聞くなど、新しい企画に向けてのアイデアを求めていく。
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	
愛知学院大学オープンカレッジ講座パンフレット(2017年～2020年、2020年度は新型コロナウイルス感染症対策のため中止)	

5. 「基準9」全体の自己評価

基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A